

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日： 平成24年10月5日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075800468		
法人名	有限会社 リフレッシュ		
事業所名	グループホーム彩	ユニット名	1ユニット
所在地	福岡県嘉麻市口春735-3		
自己評価作成日	平成24年7月31日	評価結果市町村受理日	平成24年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構
所在地	福岡市博多区博多駅南四丁目3番1号 博多いわいビル2階
訪問調査日	平成24年8月31日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人の希望や本人のペースに合わせて不安なく安心して過ごせるように努力しています。ホームを我家のように居心地よく快適に過ごして頂きたく本人の思いを早くみ取り実現できるように努力します。本人・家族又は親類の関係も円満にいきます事がグループホーム彩にとって最高の幸せです。本人がいつまでも生き生き暮らせますように願っています。また1年に1度のスマイルファミリー(家族会)の参加も年々多くなっており、ご家族・孫・ひ孫さんまで参加していただくなど予想を上回り50名以上も参加して下さり楽しいイベントとなりました。今年は家族そろってオリンピックを予定しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成17年に開設した“グループホーム彩”は、代表ご夫婦のお人柄もあり、変わらず温かい笑顔が溢れている。ホームの畑には野菜が育ち、朝5時から野菜の世話や草取りをして下さるご利用者が、丹精込めて育てて下さっている。トマトやなす、お芋などの旬の野菜は日々の食材として使われ、美味しい料理と一緒に大好きな焼酎を楽しめる方もおられる。梅干しの漬け方を教えて下さる方、毎朝、新聞を隅々まで読まれ、職員に今日のニュースを教えて下さる方や、外出を好まれない方には“デート”と言う事で声かけをすることで、次第に気持ちが動いてこられた方など、愛情いっぱいの職員の関わりで、入居時よりも笑顔が増えている。終末期を迎える方もおられるが、全員の方が「最期まで彩で…」と願われており、24時間の往診体制と家族の協力もあり、尊厳の気持ちを持った職員が温かいケアを続け、「ありがとう、ありがとう」という言葉を最後に、安らかな表情で旅立たれる方が多い。23年から主任制度も導入され、代表ご夫婦と共に元気な主任を中心に、職員個々の成長も目に見える形となって表れてきている。彩ファミリーの楽しい笑い声は地域にも届き、“幸せ”のお裾分けが続けられているホームであった。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔と寄り添いを念頭に優しく寄り添い、ご利用者様が地域の方々と触れ合いいつでも面会に来やすいような雰囲気づくりに力を入れています。	管理者と職員は、ご利用者一人ひとりのペースに合わせ、毎日の生活で“笑う”ことを大切にされている。ご本人の役割も作られ、草むしりや野菜作り等が日課になっている方もおられ、ご利用者同士の助け合いも日常にある。全員の方が“最期までここで”と言われており、医師と連携し、終末期ケアも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者様が地域との関わりが継続できますように地区行事・子供会と参加させて頂き交流の場を大切にしています。	地域の方から漬物や手作り味噌などを頂くことも多く、日々の生活の中で隣近所の助け合いが続けられている。お花見の際は、ご近所の方にも手作りのお弁当を配って食べて頂いたり、24年3月に新設した隣の小規模ホームとも協力し、地域の方の相談に応じている。“お手玉大会inいなつき”にも参加し、皆さんで楽しまれた。	地元の公立高校の生徒が地域活動の一貫としてホームに来られた時に、一緒にお手玉を作り、お手玉遊びも楽しまれた。子供会による獅子舞の披露も続いており、ご利用者も喜ばれている。今後は、幼稚園児にも遊びに来て頂ける企画を考えていく予定である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人から人への人脈もあり、地域の方々の暖かい支援は続いております。交流していく中での認知症への理解を下さり気軽に外掃やお手伝い、話し相手、将棋相手に来て下さっています。災害時も呼びかけをお願いし、一時避難や食事等のお手伝いも下さるようお伝えしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	研修や報告、評価ばかりでなくグループホームの実際、日頃の様子を知って頂けるように一緒に取り組み参加して頂くなど現状を日々伝えるように努力しています。	ボランティアで来て下さる方にも会議の参加をお願いした。会議の中で「認知症の方を地域で支えていきたい」と言う言葉が聞かれ、23年9月頃、認知症を知って頂き、安心して地域で暮らせるように“認知症サポーター研修”をホームで行った。会議の参加者以外に50名以上の方が参加して下さい、良き交流の場にもなった。	会議では、参加者の方々から貴重な意見を頂いているため、今後は更に、より詳細な議事録を残していく予定である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年数を重ねるにつれて、市の方とは信頼関係が構築でき、ホーム便りも配布させて頂き、いつも協力的に支援して頂いています。	市の職員には運営推進会議の時にホームの状況等をお伝えしている。市の課長や係長もホームの状況を聞いて下さり、ホーム立ち上げの時から協力して下さい。地域包括からの要請で、県立看護大学の研修を受け入れており、今後も引き続き、市の方と協力してより良いケアを行っていきたいと考えられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、身体拘束について研修及びホーム内研修にて積極的に対策しています。身体拘束を行わずに介護できるケアについて話し合いをもっています。一時的避難であったとしても十分に家族に説明しています。拘束をしない方針は変わっていません。	ベッドから転倒のリスクがある方には、ご本人の行動を察知できるように見守りに努めている。お部屋を畳にして、お布団に休んで頂くなど、安全への配慮も行っている。リビングにベッドを置いて休まれていた方も、様々な工夫を行うことで、自室で休まれるようになった。安眠にも繋がりが、穏やかで明るく過ごして頂いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についても研修・内部研修にて学んでいます。管理者は常に虐待が起こらないように配慮し職員の教育・資質・倫理感に力を入れています。職員のストレスを未然に防げるように対応することが虐待防止できると考えます。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて学ぶ機会を持ち内部研修で全員が周知できるように伝達研修を行っています。	管理者が、制度に関する外部研修に参加し、他の職員にも伝達研修している。2年前、市の職員から家族向けの勉強会をして頂き、意見交換も行われた。現在、制度を利用している方はおられないが、制度のパンフレット等をホームに備え付け、入居時に家族に説明し、入居後も必要性の確認が行われている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には後でトラブルが生じないようにわかりやすい言葉で一つ一つ契約書に添って説明をしています。また、確認の意味で一度二部持ち帰って頂き再確認を		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に意見・要望・苦情の窓口を説明し、またホーム内にアンケート・意見箱を設置しています。また、ご家族の来訪の際には必ず現状報告・支援経過を見ながら意見を聞くようにしています。即、相談・解決へつなげています。	22年5月に初めて家族会(スマイル・ファミリー)が行われ、とても楽しいひと時を過ごされた。その後も続けられ、24年は“家族と一緒にオリンピック”と言うネーミングで集う予定にしている。日々の面会時にも家族の思いを伺うと共に、必要に応じて、運営推進会議の場で参加者から助言を頂いている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員には感謝の気持ちとスタッフの現場の声を大切にしています。改善できるところは早急に対応していき、体調・疲労・精神面にも常に気を配っています。	月に2回ミーティングが行われている。運営者ご夫妻ともに、職員の気持ちを大切にしており、日々の現場で職員の気持ちを共有するように努めている。職員からは色々な意見やアイデアが出され、新人職員の意見にも“それはいい！。それ頂きました！”と上司が返すため、意見を言いやすい環境が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の雇用も長く職員関係も良好であります。また、職員の意欲向上に向けて労働条件・給与条件休憩時間の確保など整備されています。また、研修にも行きやすいように便宜を図っています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	人権を尊重し採用しており本人のやる気を考慮しています。本人の意欲を充分發揮できるように支援しています。	職員の採用や募集にあたり、性別、年齢等の制限は行っていない。その方の介護についての考えを伺いながら、仕事への意欲や優しさ、笑顔の素敵さ等を大切にしている。馴染みの職員が多く、お料理、工作など、職員個々の得意な内容を發揮して頂いている。資格取得や外部研修等の受講費用も支援している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の人権・プライバシーに関しては、日々業務の中で指導しています。また、研修にて知識を深め伝達しています。	会議や日々の現場で、社長や管理者が「利用者を一番に、利用者を大切に、利用者より多く関わってください」と伝えている。命令的な口調にならないように言葉かけにも配慮している。お一人だけ小さい頃の呼び名でお呼びしているが、ご本人に“どのように呼んで欲しいか”を確認し、家族にも了解頂いている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々ケアの中で学ぶ事も大切であるが、積極的に研修を受けて頂けるように支援しています。また、研修で学んだことは他のスタッフにも伝達講習して頂きスタッフ全員で向上しています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	人脈を通じて新規事業の立ち上げ応援の相談や経営の相談、実践状況など見学なども増え新規の事業者とも交流が深まっています。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学相談の段階により本人の思いを考慮し、短時間の体験も行っています。入所時には馴染みの家具・寝具・洋服等をご自分のお部屋に入れて頂いています。少しでも早く慣れて頂く為に、ミーティングにてスタッフに周知し情報を共有し入所準備としています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安要望に近づけるようにケアプランに導入しています。早めに信頼関係が築けますように納得のいくまでお話をさせて頂きアセスメントを周知しケアプランを共有しています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の思いを受け止め家族が何でも話して頂けますように話しやすい雰囲気づくりに努力しています。また、安心したサービスがスムーズに開始できますように家族一体となり支援しています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに愛情が湧いており、信頼もあつく大家族になっています。また、ご利用者に甘えたり教えて頂くことも多く、お互い感謝の言葉が多く交わされており良い関係が保たれています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	彩ファミリーは、本人だけでなく家族とも仲良くさせて頂き信頼関係も構築できています。行事参加・外出応援・面会も多くいつも家族に支えられています。		



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	老人会行事や地区行事に参加させて頂き馴染みの方との交流があり、お友達の面も多いようです。誰でも来やすいように暖かい姿勢に努めています。	会話の中で行きたい所や会いたい方を教えて頂き、ドライブの時に会いに行く事もある。お誕生日に馴染みのカラオケボックスで昼食をしたり、カラオケの先生にホームに来て頂くサプライズも行われた。馴染みのイオンで買い物したり、生家訪問をされた方もおられる。家族からの絵手紙を読まれたり、電話の取り次ぎも続けている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居期間も長く家族のように入居者同士の思いやりが多くみられています。少しでも具合が悪いと気遣う言葉もよく聞かれ、新しい入居者も「こっちにおいでよ」と誘われる姿もよく見られます。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了し、3年5年が経っても本人がいる時と同様暖かい支援が続いています。旬のもの、畑で採れたもの、本人が好きだったものや草刈りや玉ねぎ植えから収穫、道路整備まで、草の伸びを監視されているようで「これは私の仕事」といって汗びっしょりになって整備してくれます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々ケアの中で本人の思いを残し、家族へお伝えしています。本人の表情や様子により思いをくみ取りご家族に相談したりアドバイスを頂いております。	ご利用者の生活歴や思いを大切に把握するようにしている。意思疎通が難しい方も多くの言葉をかけ、その都度の表情や様子から思いを汲み取るようにしている。その方が語られた思いや言葉をノートにも残し、職員同士で共有している。入浴時は昔話も多く話して下さり、職員に子育てのアドバイスもして下さっている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し生活歴や暮らし方が把握しやすくなっています。スタッフ全員で回覧し情報を共有しています。生活していく中でヒントがたくさん含まれておりサービス利用されている中で宝物となっています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースを守りながら、その人の視点に立ち力量を考えながら支援しています。また、一人一人のその日の心身の状況を把握し柔軟に対応しています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を主としてミーティングを利用しながら介護計画を作成しています。その中でリスクを把握し課題に向けて本人・家族と接点をつかむ努力をしています。本人の思いが入ったケアプランとなっており、随時モニタリングを行っています。	担当者が“生活援助計画”を作り、他の職員の意見も取り入れながら、計画作成担当者が計画を作成している。ご利用者自身がリハビリの回数や曜日を決め、実践している方もおられ、野菜作りや草むしりなどの役割と共に、お酒などの嗜好や買い物などの楽しみも計画に盛り込まれている。家族の役割も明記されている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ホームで楽しく暮らしていきたいを念頭におきながら、日々ケアの中でスタッフで情報を共有し介護計画を見直し実践していき、気づきの段階で家族に相談・説明をしています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	全員による外出・見学支援は、もちろんですが、その方のニーズに合わせて楽しめるように支援していています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	映画のビデオを借りてきて皆で楽しみを増やしています。また、地域の歌謡ショーなどの呼びかけて頂き喜ばれています。紅葉の際の麻生大浦荘無料開放の際も門前まで車で入らせて頂きましたし、農家の方にはコスモス街道のようにきれいに整備されたところへ誘って頂き支えて頂いています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が24時間365日体制で支援して下さっていますが、他科受診の際にはスタッフが同行しています。家族と受診することを外出の楽しみともされています。	医師との連携もとれており、色々な悩みを先生が聞いて下さっている。通院介助は職員が行っているが、希望に応じて家族の通院介助も行われ、帰りに外食をしてもらえる方もおられる。受診結果は適宜報告しており、家族が通院介助をされた場合には、帰宅時に報告して頂いている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	経営者が看護師であり、早期に対応しています。観察にて異常時には緊急対応しています。不在時は、併設の看護師、訪問看護依頼など協力体制は出来ています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必ず入院時には経営者が引率しています。安心して治療できるように情報交換を行い、ご家族にもわかりやすく説明して治療が出来ています。また、主治医が総合病院の顧問であり、病院側も安心して早期に退院できるように配慮して下さっています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より重度化・終末期支援の説明をしており、ご家族に確認しております。事業所で出来ること、又、主治医により治療方針を説明され、同意の上、同意書にて確認を交わします。最期まで安心して暮らせるように24時間体制で支援して頂いています。	全員の方が「最期までホームで」と希望されている。家族の希望もあり、24時間の往診体制や訪問看護を受けながら、6ヶ月間の終末期をホームで過ごされた方もおられる。喉ごしの良いプリンなどを最後まで食べられ、温かいケアが続けられた。ご本人から「ありがとう」と言う言葉を何度も言ってくれ、笑顔で旅立たれた。主治医からも沢山の言葉をお褒め頂くことができた。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々ケアの中で急変時や事故発生に対して指導しています。主治医の連絡体制も整っています。また、応急処置も理解しやすいようにマニュアルを作成しています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練があり、火災装置・連絡体制を見直しました。スプリンクラーも設置されていますが、初期消火・誘導にも力を入れています。	ご利用者、消火設備機器の方と夜間想定訓練が行われ、全職員一緒の訓練では最終時間も測定された。2年前には消防署の方との訓練も行われ、地区の代表者や近所の方、稲築病院、家族との協力体制も取られている。災害に備えヘッドライトも購入し、ホーム中央に避難用のスロープも作られた。水や食料等も準備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々ケアの中でご利用者様に対する尊敬の念をもって接することを常々指導しています。また、プライバシーを守り優しく接することを厳しく指導しています。優しさの中で安心して暮らしていけるようにスタッフ間で話し合いを持っています。	“笑顔、寄り添いそれが私達の幸せです”という理念の通り、職員はいつも優しい笑顔で接している。個別に合わせた声かけを心がけ、気になる時は職員同士で注意している。申し送りも周囲に聞こえないように配慮しているが、今後は笑い声などが大き過ぎないかにも気を配り、更なる配慮をしていく予定にしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のペースを守りながら生活の中で自分の思いを伝えやすいような場面にもって行ったり、ご利用者様の思いをくみ取る努力をしています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、ご本人のペースを守り本人の希望に添って支援しています。本人の意向を優先します。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれの日があり、顔そりやマッサージ・マニキュアを塗って美しくなることをとても喜ばれています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームで栽培された、取れたて野菜を喜んで食されています。また、梅ジュース・梅酒・らっきよ漬等、季節のものの差し入れも楽しみにされています。	調理担当の方が毎食作られている。ご利用者も、野菜の皮むきや食器拭き等をして下さり、旬の料理が提供されている。ご利用者からの要望があり、朝食をパン、スープ、目玉焼き、コーヒー牛乳、サラダ、デザートを準備したところ、とても喜んで下さった。今後はパン焼き器を購入し、できたてのパンを食べて頂く予定にしている。	



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取量を把握しており主治医に指導を受けています。食事量や飲水量は細かく計算され、排泄との関連もよく観察しています。また、個人によって調理方法も異なり誤嚥を予防しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状況に合わせて見守り・介助・確認まで行っています。義歯は毎日洗浄も行っています。(含嗽水は紅茶を使用)		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しながら同時刻にトイレへ誘導したりリハビリを強化し下肢の筋力をつけていく中で誘導がスムーズに行えるようになるなど力量に合わせた支援を行っています。	排泄パターンを知り、トイレ誘導に力を入れてこられた。便座の前方に手すりを付けた事で、排泄時の立ち上がりがしやすくなり、日々のリハビリと共に自立にも繋がっている。トイレのナースコールを前面にセットし、鳴らしやすくする配慮も行われた。下着利用の方もおられ、オムツ使用の方も陰部洗浄を毎日行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を把握し毎日牛乳を飲んでます。水分強化に努め野菜・果物・繊維の多い食事になっています。また、便座に座ったときに少しかがみになり腹圧をかけたり、マッサージ・肛門マッサージの刺激を与えるなど排便を促しています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが、本人の希望やタイミングに合わせて臨機応変に入浴を楽しんでいます。入浴だけでなく、シャワー浴・清拭・足浴・陰部洗浄にて清潔を保っています。温泉の湯や薬草も楽しみの一つです。足湯も好評です。	入浴時は職員との会話が弾み、季節に応じて屠蘇湯や菖蒲湯なども楽しまれている。入浴後に誘導するとスムーズに入浴される方もおられ、ご本人の生活リズムに配慮した声かけをしている。重度化している方もおられ、より安心した入浴ができるようライニングも可能なシャワーチェアを購入し、ご本人の負担を軽減している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースを守り、本人の希望・状況に応じ、不安なく安心して休息できるように配慮しています。不安な時には横で添寝することも安心につながります。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ファイルを見ながらお薬をセットしています。薬の名前・副作用・用法など把握しています。また、お薬の変更時には特に注意を促し、カルテに書きとめ、効果・副作用等を理解した上で経過を見えています。		



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事・水やり・草取り・戸じまりと役割を持ち、感謝することでとても喜ばれます。気分転換でスタッフとのデートも喜ばれています。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様の希望に応じてレクリエーションを散歩に変えたり、近隣の外出においても人員を増員したり、ご家族に支援頂いたり外出できるように支援しています。	庭のお花や菜園の手入れをされる方もおられ、日常的にホーム周辺の散歩をされている。隣接する病院の敷地内には桜並木や藤の花があり、季節の花を楽しまれている。母の日にはイオンでお茶碗を選んで頂き、一緒にアイスを食べられたり、ひよこ工場の見学も楽しまれた。手作りのお弁当を持って、四季折々の花見にも出かけており、個別の希望に応じて織田美術館などに行かれている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口の預かり金であるが、病院受診代・お買い物・外食費など、お金を持参し、お支払いできるように支援しています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人がご家族の事をお話したり、逢いたい様子が伺える時は、お電話をかけたり、お話ができるようにしています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先及びエントランスに椅子を設置した。椅子に座り、おしゃべりしたり、季節の飾り物を鑑賞したりされています。	ホームの畑にはご利用者が育てている野菜があり、収穫時期も教えて下さっている。リビングの天井の梁には手作りのスイカが吊るされ、季節の花も飾り、会話のきっかけになっている。レクや食事等の活動に応じて自由にリビングのテーブルの位置を変えており、車椅子の高さに合わせて高さを変更できるテーブルも購入された。玄関のベンチで団欒されるご利用者の姿も日常となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先に椅子を設置しており、ソファで話しながらひと休みされている場面もあり、居心地よく過ごされています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より、馴染みのものや使い慣れた好みのものを持ってきてもらっています。仏具や遺影も持って来られており、毎日、安心して過ごす事が出来ています。	和室1部屋と洋室8部屋があり、居室に据え置き型の箆笥が全て新調された。ご利用者は自宅で使っておられた家具やベッド、布団の他、鏡台、ソファなども持ち込まれ、居室のレイアウトは家族と一緒にされている。壁には掛け軸を下げ、家族の写真を貼られたり、家族がお花を飾って下さる方もおられる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の力量を把握し、車椅子も見守りで操作でき、車椅子より普通のイスへ移乗できるようにられました。転倒のリスクが高い方もベッドをなくした事で安全に過ごせるようになり、転落の危険がなくなりました。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

事業所名: グループホーム 彩

作成日: 平成 24 年 10 月 29 日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域との交流の場を増やししながら、子供110番の家を開始し、子供とのかかわりに力を入れていきます。	地域の子供たちが、いつでも立ち寄れるような雰囲気をつくっていきます。	1. 子供110番の家を開始します。(9月) 2. 幼稚園と交流を深めていき幼稚園児の発表の場としても提供していきます。 3. 小学生の帰り町に「おかえりなさい。」等声かけより行なっていきます。	12 ヶ月
2	4	運営推進会議の中で、大切な意見を残していけるように詳細に記録致します。	常にサービスの向上をめざし、スタッフ全員に意識づけしていきます。	運営推進会議での内容・意見等、いつでも周知でき、回覧できるように、議事録帳をつくります。	直ちにヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月